

# 和白干潟を守る会

## 2021年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

### 2021年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、33年を過ぎました。会員の皆さまのおかげで長く続けてくることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。昨年も世界中で新型コロナウイルス感染症が流行しました。日本でも年末年始、5月、8月に感染拡大の山が来ました。緊急事態宣言も出され、和白干潟を守る会では多くの活動が制限され、和白干潟まつりも中止いたしました。昨年10月からは感染が収まって来ています。このまま収束するように願うばかりです。2022年こそは楽しい「和白干潟まつり」を開催したいですね。2021年度はコロナ禍の中でも、延期が続いたガイド講習会が無事に開催できました。和白干潟を守る会がエクセレントNPO大賞にノミネートされました。福岡県にミヤコドリ保護の要望書を出しました。調査とクリーン作戦を続けることができました。新しい会員が増えました。いいことも色々ありました。

2021年11月に鹿児島島の「出水のツルの越冬地」がラムサール条約に登録されました。残念ながら和白干潟はまだ登録されていません。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていきたいと思います。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。まだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2021年1月に新春講演会「立花山の歴史について」を行いました。10月には「唐原川お掃除し隊」を実施しました。

活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加者が増加傾向です。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力いただきました。2021年度は新型コロナウイルス感染症の流行で活動が制限された中で、よく活動を続けることができました。今冬は、ミヤコドリは22羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも18羽を確認しています。ツクシガモは255羽を確認しました。ズグロカモメも7羽が飛来しました。今冬はハマシギやシロチドリなどの小型シギ・チドリ類の群れが見られます。和白干潟がもっともっと回復して行ってほしいと願っています。

2022年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

## 活動方針に基づく報告とまとめ

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

### 1. 和白干潟観察会

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観察会は大きく減った。1月に観察会案内状の送付を行い、観察会グループミーティングは、12月に行った。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2021年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間2回で、延べ150名の参加があった。学校関係からの依頼では、

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2021	保育園	0	0
	小学校	1	117
	中学校	0	0
	高校	1	33
	大学	0	0
	一般	0	0
	合計	2	150

小学校1回（和白小学校）117名、高校1回（柏陵高校）33名、合計2回、150名あった。コロナ禍の影響で例年行われる和白小学校の2月末のまとめの発表会は中止となった。毎年7月に開催している「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」は、新型コロナウイルス感染症が収まっていたため実施することができ、63名の参加があった。ガイドの固定化と高齢化の課題に対しては、新規会員の方がガイド見習いとして参加するなど改善の兆しがみえた。ガイド見習い研修については、今後も継続して行く。

### 2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、10月31日に第23期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を行い、16名の参加があった。コロナ禍で延期が続いたが、無事に開催できた。

### 3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間11回、1月は雨天中止だったが1名が午前中に16袋回収した。新型コロナウイルス感染防止のために5月と9月は一般のよびかけを行わずに守る会のできる人で行った。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会で7袋を回収した。今年も新型コロナウイルスの発生により、観察会などの中止や変更でゴミの回収も少なかったがこの内、守る会人数は延べ157名だった。全体では延べ512名の参加があった。ゴミについてその内訳は、人工ゴミ：263袋、草木：290袋、アオサ：495袋、可燃ごみ：1048袋、不燃ごみ：22袋で、合計で1070袋だった。粗大ゴミでは、今年もタイヤ、浮き、寝具、電化製品、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や城東高校、九州産業大学生などの参加があった。アオサは少ない時期と多い時期があった。特に和白地域では11月末頃から、取り残されたアオサがちぎれて沿岸に溜まってへドロになり、周辺にひどい臭いが漂った。アオサの時期は9月からが多いが、風によって沿岸に寄ったり流されたりしており、業者も3回ほど回収した。

年度	活動項目	回数	延べ人数(人)	ゴミの量(袋)
2020	クリーン作戦	12	402	1,145
	その他	3	198	5
	合計	15	600	1,150
2021	クリーン作戦	11	512	1,070
	その他	1	127	7
	合計	12	639	1,077
増加割合(%)		80.0%	106.5%	93.7%

・4月25日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」参加は新型コロナウイルス感染防止の為に中止。

・6月ラブアースクリーンアップ中止。

・9月26日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には九州産業大学宗像ゼミの学生や企業からの協力があった。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多かった。

#### 4. 第33回和白干潟まつり

第31回和白干潟まつりは雨天中止、第32回はコロナ禍により中止、今回第33回こそ実施したいと新型コロナウイルスの終息を願っていたが、残念ながら第3波、第4波、第5波と感染拡大が続いた。8月の第1回実行委員会で、来場者、出店者、グリーンコープ東支部、守る会の負担と安全性を考え、第33回干潟まつりの中止を決定した。9月上旬に出店予定者、関係各位に干潟まつり中止のお知らせハガキを送った。11月初めには、グリーンコープ東支部組合員にも干潟まつり中止のお知らせチラシを配布した。和白干潟通信139号、ホームページにも干潟まつり中止のお知らせを掲載した。

#### 5. 和白干潟に関する学びの機会をつくる

昨年同様コロナ感染拡大が続き活動が困難であったが、細心の注意と密を避けできる範囲の活動と情報発信に努めた。再三の延期を繰り返しながらも10月31日、自然観察ガイド講習会を実施、和白干潟の海浜植物の特性や分布図の作り方を学んだ。10月発行の和白干潟通信139号で「和白干潟の海底湧水」を始めとする、和白干潟の魅力を改めて取り上げた。この2年間にわたるコロナ禍の閉塞感の中、人々は身近な山や海の自然の素晴らしさに誰もが癒され、その魅力を再発見できたのではないだろうか。11月30日の九州産業大学「地方自治論Ⅱ」「行政学」(地域づくり)での特別講義では「和白干潟の自然と地球の未来について」山本代表は和白干潟の現状と活動の歴史と未来への希望を語った。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

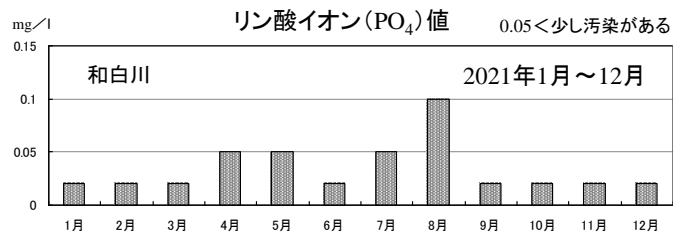
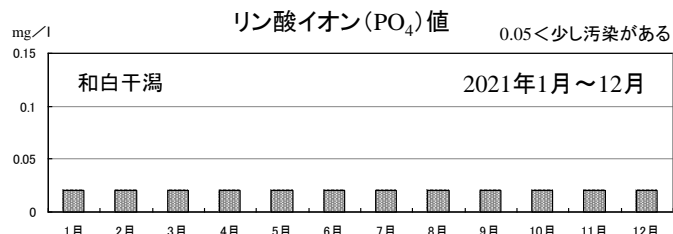
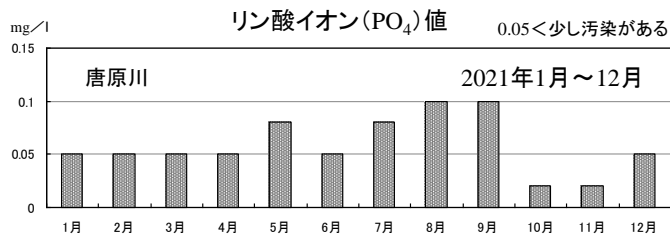
#### 6. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

##### (1) 水質調査(毎月1回実施)

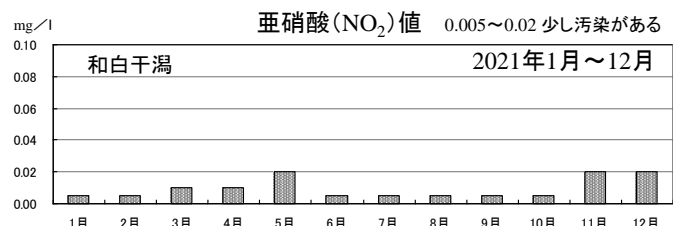
①リン酸イオン値( $PO_4$ )は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05~0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。

- ・和白干潟では、年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。
- ・唐原川、和白川とも年間を通して0.05を越えることがあったが、0.05の時も多くあり、和白干潟よりは少し汚染がある状態である。

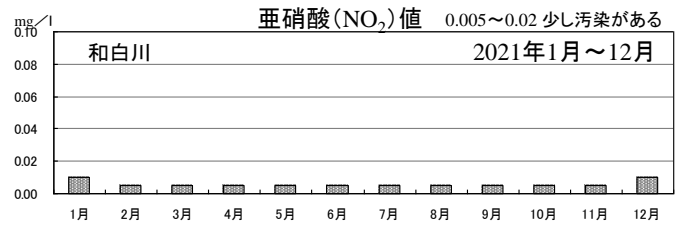
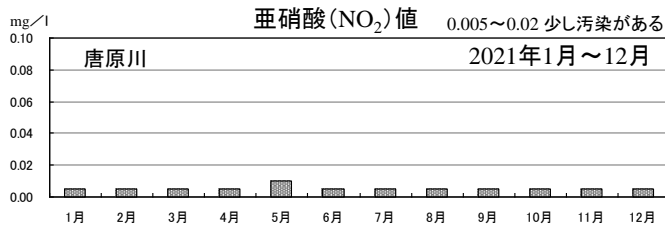


②亜硝酸値( $NO_2$ )は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005~0.02は「少し汚染がある」、0.02~0.05は「汚染がある」状態を示す。

- ・和白干潟では年間を通して0.02以下であり水質は「少し汚染がある」状態であった。



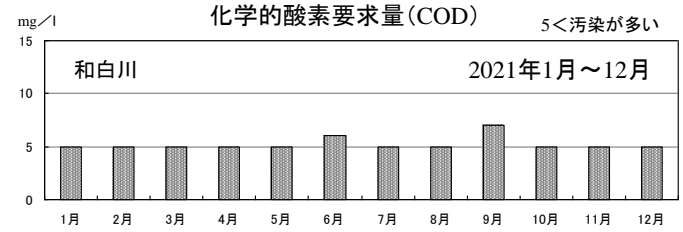
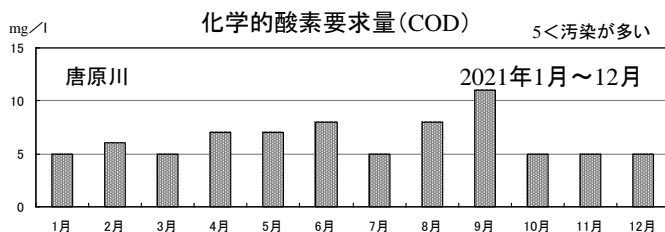
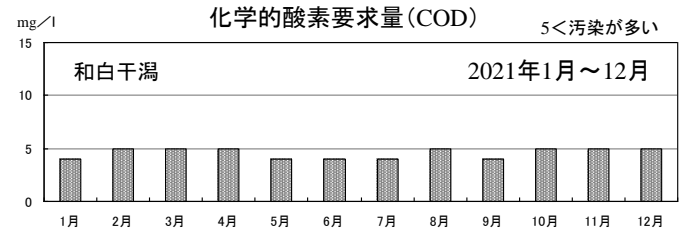
・唐原川、和白川は、年間を通して0.01以下であり、「きれいな水」の状態であった。



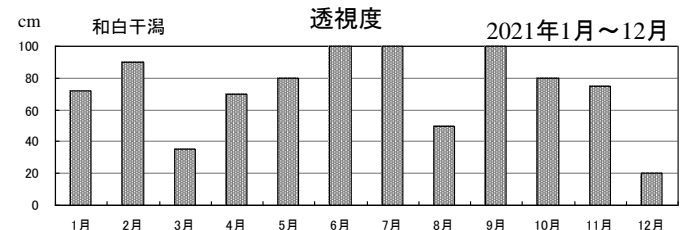
③化学的酸素要求量(COD)は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2~5は「汚染がある」状態、5~10を「汚染が多い」としている。

・和白干潟では年間を通して5以下であり、5を下回る月が5回あり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。

・唐原川や和白川では年に何度か5を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。和白川と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、以前は通常30cm位であったが2015年度からは透視度計の100cmまで見えることがあり、透視度は改善傾向にある。2021年度は平均で72cmであり、前年よりは改善した。

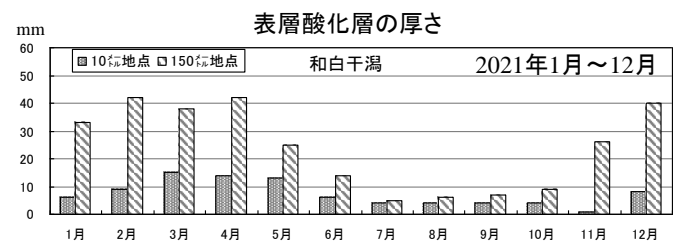
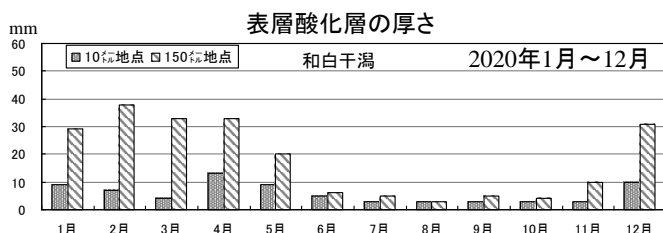


## (2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、30種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチック類で「食品包装や袋」と「食品容器」だった。調査には九産大宗像ゼミの方々の協力があった。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

## (3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10<sub>メートル</sub>地点と150<sub>メートル</sub>沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



上のグラフは、2020年度と2021年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、2021年度は、2020年度に比べて改善している。

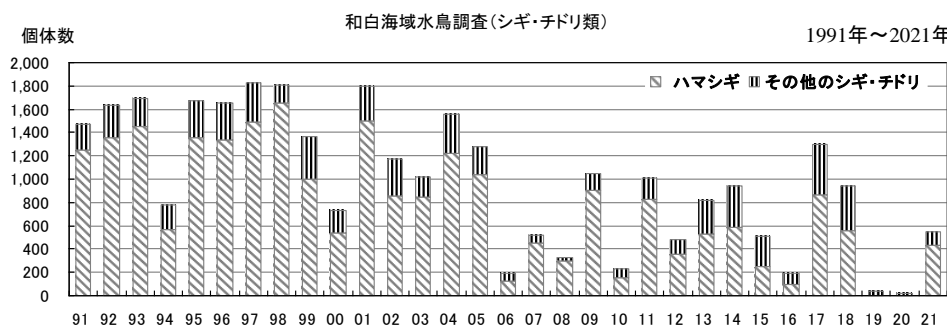
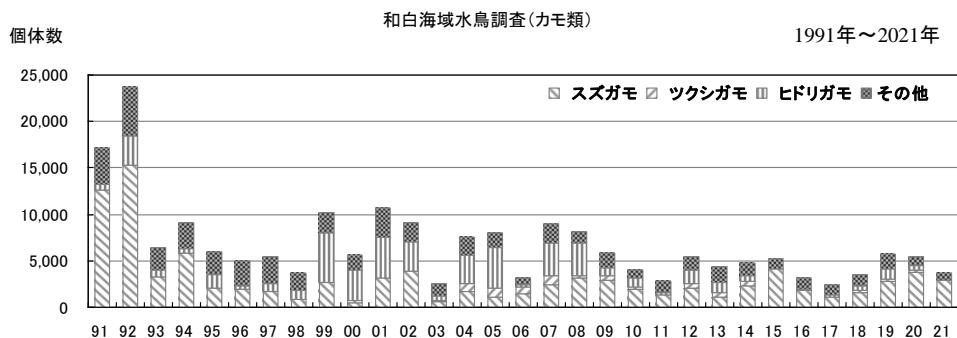
## (4) 鳥類調査

2021 年度は新型コロナウイルス感染防止のために、調査員は集合せずに各調査ポイントに分かれて調査した。調査記録を写真とともに送ってもらい集計した。

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部）2021年1月13日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数（和白海域水鳥調査）の内、カモ類は前年の5,458羽より減少し**3,633羽**、最多の1992年の23,719羽と比べて約6分の1だった。シギ・チドリ類は大幅に減少した前年の23羽より増えて**558羽**。ハマシギやミユビシギの群れが見られた。90年代の約1,600羽と比べて約3分の1に回復した。調査参加者は6名だった。



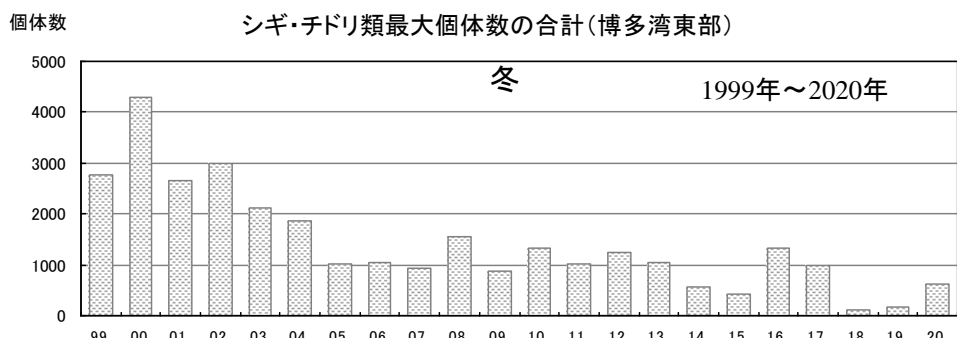
② 環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査（環境省・NPO法人バードリサーチ）

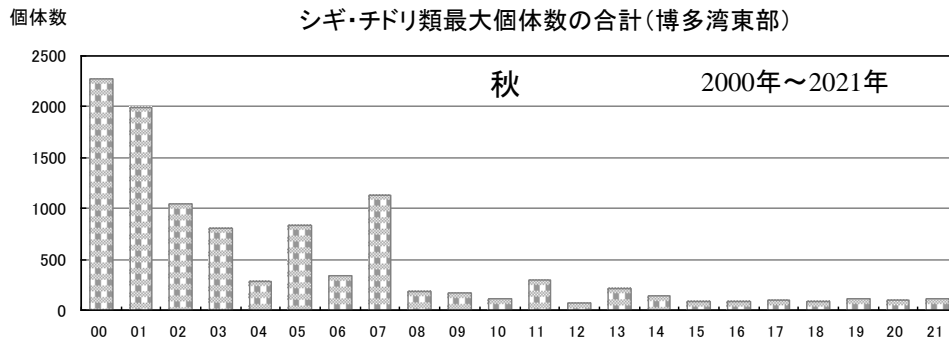
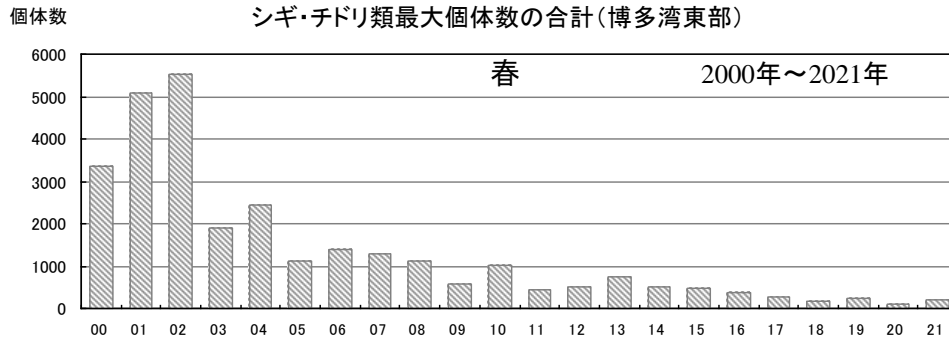
冬期：2020年12月、2021年1～2月 今津と博多湾東部で各3回実施

春期：2021年4月～5月 今津と博多湾東部で各3回実施

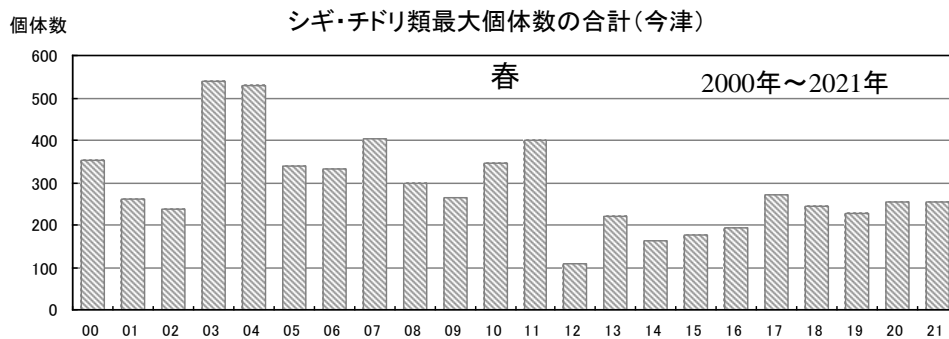
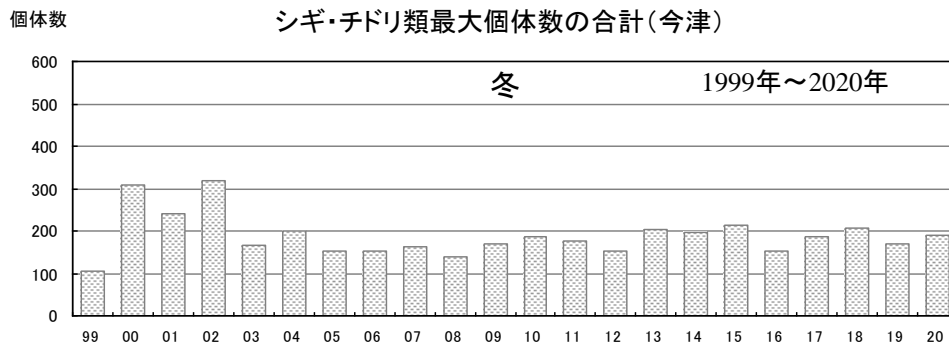
秋期：2021年8月～9月 今津と博多湾東部で各3回実施

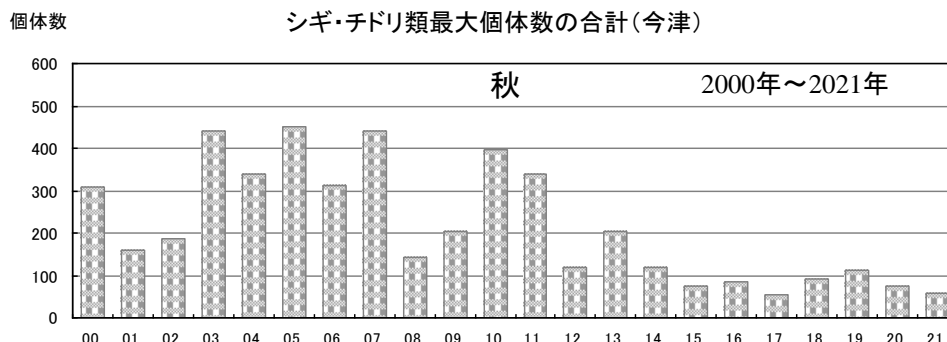
博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2020年度冬期は2000年の4,300羽から**611羽**に減少し（昨年181羽より増加）、2021年春期は2002年の5,509羽から**216羽**に減少（昨年87羽）。2021年秋期は2000年の2,271羽から**118羽**に減少した（昨年95羽）。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**19羽**（昨年35羽）、ヘラサギは最大**4羽**（昨年1羽）、ツクシガモ**190羽**（昨年254羽）、ズグロカモメ**0羽**（昨年0羽）を確認した。





今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2020年度冬期は2002年の319羽から**190羽**に減少し(昨年171羽)、2021年春期は2003年の538羽から**253羽**に減少(昨年255羽)、2021年秋期は2005年の450羽から**58羽**へ減少(昨年76羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**15羽**(昨年21羽)、ヘラサギは最大**7羽**(昨年7羽)、ツクシガモ**125羽**(昨年30羽)、ズグロカモメ**11羽**(昨年16羽)を確認した。





(※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2017年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが、2018年春期以降はまた減少し、2020年冬期はまた少し回復した。今津のシギ・チドリは減少状態である。博多湾東部に比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。

2021年の鳥類調査参加者は、毎回8名から10名、延べ84名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が不足している。調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2021年9/2に1羽初認、10/7に9羽、10/17に16羽、11/19に17羽、12/5に18羽、(2022年1/1に20羽、1/4に22羽)を観察し、越冬している。(昨年度19羽最大数記録) クロツラヘラサギは2021年9/22に8羽初認、10/15に10羽観察、10/25に15羽観察、10/27に18羽観察。(昨年度17羽最大数記録) その後も2~12羽が越冬している。ツクシガモは10/25に4羽(初認)、11/19(8羽)、12/14(49羽)、12/15(88羽)、12/18(130羽) 12/29(155羽) (2022年1/1に255羽) 観察。以降も越冬している。(昨年度190羽最大数記録)

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

## 7. ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向け活動に取り組む

今年度は新型コロナ感染防止のため、第33回和白干潟まつりが中止になったことで、ラムサール宣言を出すことができなかった。

## 8. 福岡県・福岡市等の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

### (1) 福岡県・福岡市等の政策についての取り組み

- ①「福岡県希少野生動植物の保護に関する条例」について福岡県へのミヤコドリを指定種に入れて保護するように要望書を提出した。
- ②和白海域の海底耕転についての説明会があった。(福岡市港湾空港局)
- ③福岡県水産海洋技術センターの和白干潟でのアサリ増殖実験の説明会があった。
- ④奈多ヘリポート排水機能強化に関する説明会があった。(国土交通省、福岡市港湾空港局)

## (2) 福岡市との連携

### ①「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課や自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を毎月1回定期的に開催しているが、新型コロナウイルス感染防止のために6回中止となった。但し、コロナ感染が落ち着いた7月の「和白干潟の生きものとハマボウを見る会」は無事に開催され、秋に3回予定していた「アオサのお掃除大作戦」も2回実施することができた。12月の「バードウォッチング in 和白干潟」も参加人数を制限して開催された。

### ②「ラブアースクリーンアップ」

6月のラブアースクリーンアップ2021は新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

## 9. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春講演会は「立花山の歴史について」のテーマで、郷土の歴史を学びあう会 理事兼山城班 班長の党 弘行氏から話があった。その後、同会 副会長 今宮 孝子氏から大型パネル等や写真、その他の資料を展示しての説明があった。「山・川・海の流域会議」は定期的に行われていたが、「立花山を歩こう」の企画はコロナ感染予防のため2度延期となり3度目で中止の判断となった。10月の「唐原川お掃除し隊」は急速なコロナ感染の収まりで、予定通り実施する事が出来た。参加者は昨年の半分程度と少ない状況であったが、好天にも恵まれ無事に終了した。2か月に1回の定例会は他団体でも高齢化し、出席者が減少している。

## 10. スタッフの確保、活動への参加の強化について

ボランティアの募集に力を入れ、気軽にボランティアに参加できるようにHP、通信、あすみんHPなどで情報提供している。その成果もあり、コロナ禍においてもクリーン作戦の参加者は増えている。会員数については、新規会員も増えたが、結果的に個人会員は前年度より減少となった。団体会員数は変わらなかった。

## 11. 広報の強化について

### (1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

#### ①干潟通信

和白干潟通信は1月に136号、4月に137号を5,000部ずつ発行した。7月に138号を5,100部、10月には5,000部を予定通り発行できた。コロナ禍における発行だったこともあり、手配り時にはマスクの着用、手指の消毒を徹底した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷（株）で作成した。4月発行の和白干潟通信137号から「和白干潟と私」という題名で、幼少時代からの山本代表と和白干潟の関わりの掲載を始めた。10月に発行した和白干潟通信139号では「第33回和白干潟まつり」中止のお知らせを掲載した。1月発行の140号の記事は「干潟まつりの報告」の代わりに、干潟まつりのステージで毎年開催していた紙芝居の原作を紹介し、「絵本の紹介」、「和白干潟のふしぎ」を掲載した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦や自然観察会参加者、ホテル、郵便局など。

② ホームページは、4名が分担し編集している。（山本、山口、山之内、木下）

③「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大）、銀行、駅、老人福祉センター（東香園）、などにも掲示依頼している。

④リーフレット類は今年度も在庫があったので印刷はしなかった。

### (2) その他

#### ①イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し、14年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には



1年間のギフトカードを寄贈された。但し、新型コロナ感染予防のため、昨年4月からキャンペーンは実施するが店頭活動が中止となり、今年に入ってもその形態は変わらなかった。守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけることが出来ない状況となっている。

## 1 2. 講演活動

山本代表が以下2件の講演活動を行った。

- (1) 8月 福岡女子大学と九州産業大学との連携授業で講演「九州・福岡の環境問題を考える」
- (2) 11月 九州産業大学地域づくり学科で特別講義「和白干潟の自然と地球の未来について」

## 1 3. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・「まちむら」152号を上和白郵便局、西日本シティ銀行和白支店、和白4区町内会長に差し上げた。
- ・「まちむら」152号を福岡市長、東区長、西日本新聞東支局今井氏、九産大宗像先生、城東高校宛に送付した。
- ・和白干潟を守る会のリーフレット類4種30部ずつを福岡県NPO・ボランティアセンターへ送付。
- ・「福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例」について、市議会議員 森さん、尾花さんにメールにて確認。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟賛歌」レストラン「花もも」にて(5/1~5/31)開催し、和白干潟のパンフレットや通信を配布。
- ・日本フィランソロピー協会の「ボランティアマッチングメニュー拡充に関するアンケート」に書き込み送付。
- ・「新型コロナウイルスの環境保全活動に与える影響に関するアンケート調査」を国立環境研究所にネットで送った。
- ・「未来につなぐふるさと基金事務局」に「環境団体のコロナ禍での活動に関するアンケート」に回答し送付。
- ・東京都市大学環境学部馬場研究室による環境・エネルギー問題に取り込むNGOの活動や「市民参加型研究プロジェクト」に対する意識調査に協力してアンケートを書き込み送付。
- ・MS&ADのラムサールサポーターズ活動インタビューに書き込み送付。
- ・「チームエナセーブ未来プロジェクト」2022年度の活動実施に向けたお伺いへ書き込み送付。
- ・社会貢献支援財団からの活動支援のアンケートに記入して送付。
- ・福岡県環境部自然環境課の「生物多様性に関するアンケート」に書き込み送付。
- ・あすみんからのアンケートに書き込み送付。
- ・和白干潟を守る会の郵便振替口座の取引目的等の確認のお願いについてゆうちょ銀行のホームページより回答を書き込み送信。

## 1 4. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について各新聞社に情報提供した。
- ・1/24 西日本新聞にツクシガモが掲載された。
- ・福岡大学生(山口さん)から和白干潟のアオサなどについての質問があり答えた。
- ・九産大3年生(高橋広樹さん)のインタビュー「人々の地域活動への関わりとその背景-和白干潟を守る会の活動」を受けた。
- ・10/12 西日本新聞にミヤコドリ飛来が掲載された。
- ・香椎高校生のツクシガモに関する質問にメールで答えた。

- ・西日本新聞のカメラマンがツクシガモを写したので電話取材を受けた。
- ・12/24 西日本新聞にツクシガモが掲載された。

## 1 5. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

### (1) 日本野鳥の会福岡支部

毎月1回「和白海岸探鳥会」に、お世話係で協力している。

### (2) JAWAN、JEAN

① JAWAN 総会 2021 年度は新型コロナウイルス感染防止のため開催されなかった。

② JEAN 「国際ビーチクリーンアップ」

4 月は新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

9 月は緊急事態宣言中につき、一般には呼びかけないで九産大宗像先生とゼミの学生に協力してもらい漂着ゴミの調査をおこなった。

### (3) 日本自然保護協会

日本自然保護協会に和白干潟クリーン作戦の年間スケジュールを送りナビに掲載をお願いし、掲載された。

### (4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第 33 回和白干潟まつりの共催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

第 1 回和白干潟まつり実行委員会は行った。

### (5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HP などへの情報提供を継続し、ボランティアに登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

### (6) 蒲生を守る会とは 機関紙交流を続けている。

## 1 6. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

### (1) 定例会議・総会

原則毎月第 4 土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を開催。2 月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決めた。2019 年の総会で定めた内規「会の独立性・中立性について」、「資金の調達について」の確認を行った。

定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。また、必要に応じて、役員会を開催した。

5 月から定例会議の時間を 12~14 時に変更したため、クリーン作戦の準備は余裕を持って行うことができた。但し、本年度も新型コロナウイルスによる影響で緊急事態宣言等が発令されたため、5 月と 8 月の定例会議は、事務所に集まることをせずにメールで資料を配布し、翌月の定例会議で印刷したものを配布し討議した。他の月については、マスクの着用、入り口での手指の消毒、間隔を開けて座る、歌は歌わない、窓を開けての換気などコロナ感染防止対策に努めながら開催した。新規会員が増え定例会議に参加する顔ぶれが変わったが、退会者や病気のため参加できない会員もいたため定例会議出席者は各回 10~19 名、平均約 13 名だった。

### (2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしている。年度途中の事務局長の諸事情により、臨時総会にて事務局体制の変更（①事務局長の交代 ②事務局次長の選任 ③監事の選任）が採決された。また、通信発送会は定例会議に出席されない会員も参加されていたが、高齢化のため、参加者、手配り人員が減り、郵送も増え、時間的負担も大きくなった。年末の大掃除を行った。

(3) 助成

- ・イオン環境財団から助成金を受けた。

(4) 寄付

- ① あいおいニッセイ同和損保 KK より寄付いただいた。
- ② MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株)より寄付いただいた。
- ③ イオン九州(株)より「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でイオンギフトカードを寄付いただいた。
- ④ 和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。
- ⑤ カノンより寄付いただいた。
- ⑥ ダンロップタイヤ九州 (ユネスコ協会連盟) よりタイヤ寄贈の連絡があった。  
(松田さんが応募して3月に交換予定)
- ⑦ 会員や市民からカンパをいただいた。

(5) 応募と受賞

- ・2月 「第8回エクセレントNPO大賞」の「市民賞」にノミネートされた。
- ・3月 第3回環境カウンセラー環境保全活動「環境大臣賞」を受賞した。(山本代表)
- ・6月 「令和3年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」に応募した。→選外だった。
- ・9月 第24回日本水大賞に応募した。

(6) 2021年度末の新規会員

個人：9名

(7) 2021年度末会員数(新規会員含む)

個人会員：199名 団体会員：14団体

17. パンフレット類の在庫 (2022年1月現在) ※在庫が少ない\*印分を2022年度に印刷予定

*和白干潟を守る会リーフレット	1,008
・和白干潟の自然案内(和文)	2,837
・環境教育シリーズⅠ(環境教育プログラム)	7,180
・環境教育シリーズⅡ(水鳥,底生生物,植物図鑑)	2,283
・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	毎年印刷
*和白干潟を守る会封筒	1,500
・ラムサール条約と和白干潟	31
・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ	11
・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会30年の歩み	1273
・四季の和白干潟の自然Ⅰ	3,460
・四季の和白干潟の自然Ⅱ	8,276
・和白干潟の自然案内(英文)	512
・環境教育シリーズⅡ(英文)	376
・環境教育シリーズⅡ(韓文)	41

18. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回) 2名